

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団長啓会		
事業所名	グループホーム松葉の家(1ユニット)		
所在地	静岡県袋井市大野2730-4		
自己評価作成日	平成28年12月2日	評価結果市町村受理日	平成29年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivovoCd=2276600315-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の代理家族として、ご家族が関わるであろうすべてのことを出来る限りご家族に代わって支援していきたいと取り組んでいます。そのためには、ご家族の協力を得、相談、報告を密にするように心掛けています。また、理念にある「自己決定の支援」を常に念頭に置き押し付けや拘束のない、自宅にいるような気持ちで生活が出来るように支援しています。日々の介護の中で医療・認知症・接遇について沢山の事を学び、それを知識として取り入れ、利用者様と嬉しいこと、悲しいこと、楽しいことを共有し介護を楽しんでいます。誠心誠意のサービスを提供し、地域の皆さんの福祉の担い手として頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調査訪問日はこの冬一番の寒波。戸外の冷たさとは裏腹に、車いすの利用者の膝の上に洗濯籠を乗せ談笑しながら洗濯干場に向かう姿をはじめ、目が合えば「寒いねえ」「はい、はい」と発語がスムーズな様子から「自己決定の支援」の蔓延が覗えます。クリスマス会にもその姿勢は垣間見え、フェルトのツリーガーランドは縫い物の得意な人のための職員による発案で、開・閉会の挨拶も利用者が担当しています。また事務室には「コンプライアンス・セルフチェックシート」が貼られ、勤務管理表には「計画・実績」及びその日の人数が入り、法令遵守を法人一丸で推進していると確認でき、管理者の誠実な人柄と併せ安心感のある事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念 「自己決定の支援」 「介護に学び介護を楽しむ」 「地域の駆け込み寺になろう」	フロアだけでなく職員用トイレにも貼り出して意識を促しています。車いすの利用者の膝の上に洗濯籠を乗せて仲睦まじく戸外の洗濯干場に向かう姿や、目が合えば「寒いねえ」「はい、はい」と発語がスムーズな利用者が大半なことから「自己決定の支援」の蔓延が視えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩に出掛け近隣の方と挨拶を交したり、自治会の活動への参加やホームの開催する行事に招待し楽しんで頂く機会を設けている。	森町からはるばると、生徒のボランティア訪問が6年続いています。朗読や一輪車、ソーラン節の披露は中学一年生の思い出行事のようになり、また「此处にこれがあると危ないよ」と大人顔負けの進言もあり、学校文化祭にも招待され、地域の交流事業として昇華しています。	「自己決定の支援」が実現していることから、若い人たちに広く知ってもらえるよう、職業体験を広く受入れていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活ボランティアの受け入れを行っており地域住民の方に認知症の理解や支援を得ている。また、子供達のボランティアを受け入れることで認知症の高齢者と接する機会を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での提案や指摘事項については職員に知らせ話し合いサービス向上のために活かしている。	行政、地域、家族、職員が顔を合せ、特に地域包括支援センターからは「3人職員がいる、というだけでなく、どんな連携をとっているかそういったことを話してほしい」「前回の質問の回答がないが、どうだったのか」といった率直な意見や指導があり、充実していることを書面確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する相談や報告を通じ市の担当者との関係を築いている。(ホームの実情や取り組みを報告し防災課等他の部署への連絡の橋渡しも担って貰っている)	市職員は運営推進会議にも毎回出向いてくださり、市役所主宰の「認知症にやさしい地域作りの会」「介護保険研究会」ではスリーAやコーチングの講習がおこなわれ、またヨコの連携もあり、学びとネットワークを深める場となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について話し合い正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また玄関の施錠はしていない。	玄関、ユニット入口に施錠はなく、「利用者の気持ちに添って～」は会議でも議題に乗せて未然に防ぎ、また一時的なベッド柵等軽微な点への取り組みでも家族に理解を得ています。「自分自身で本当に正しいと思いますか」と問いかけるコンプライアンス・チェックシートもあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられており職員は意識して虐待の防止に努めている。また法人には関係部署への通達や、取り調べのシステムが出来ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、利用者個入に必要な性が生じた場合は制度活用に向けて関係機関へ連絡、相談をしている。 また任意で加入している研究などで制度を学ぶ機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の時にホームの特色など含め契約内容のせつめいを十分行っている。契約内容変更の時は、事前に説明会を行い理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に要望等を伺ったりしています。また意見箱をせつちしており意見や要望を表せるようにしている。	毎月「松葉の家便り」を届けています。運営推進会議には毎回出席があり、7名という時もあります。懐メロを唄って愉ませてくれたり、バラ園を営む家からは見事な大輪の薔薇が届いてテーブルを彩る日もあり、家族とは「会話を多くもつ」ことを旨とする事業所の努力が実っています。	デジカメプリントがあまり見られず「ビジュアルで伝える」ことが弱い傾向があります。得意な職員も入ったことから向上することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議が定期的に行なわれているので職員や提案を聞く機会になっている。	「きちんと1時間休みをとりましょう」と法人から推奨され、管理者は「有給をとろうね」と声をかけており、12月の勤務管理表からは全員有給マークが入っていることを確認しました。職員の顔ぶれも常態化し、従業員満足の高い職場のため、職場会議やユニット会議での発言も活発です。	「現在の充実した状態を維持してもらいたい」ことから、個人面談も加えていくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得者には資格手当が与えられるなど、意欲の向上が図られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機会を設けたり研修補助規定を設け各種の研修参加を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の他の事業所の管理者と情報交換の機会があり、その内容を事業所の職員に報告している。また、職員は勉強会、研修会等を通して交流を図り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にも何回か本人と会う機会を設け本人の思いを聞き察し、顔なじみになれるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時の聞き取りの段階で家族のこれまでの思いや今後の要望を聞き取り、また来設時には声掛けをするように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の主訴から今必要な支援は何かを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と一緒に家事を行ったり、日課相談するなど暮らしを共にする者として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時には家族とホーム側との双方で本人の支援をしていけるようにと伝え場面、場面相談や報告を行っていけるように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近所付き合いのあった方の訪問をうけている。	週3～4日訪れる男性伴侶は自らスクーターを走らせることもあり、夫婦愛の深さに感銘を与えています。美容院を経営する若い美容師が毎月訪れ無償でカットしてくれたり、演奏や踊りのボランティア訪問もあります。近くのサークルKも顔なじみで、親切に防風ドアを引いてくれます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを仲介することで思いやり(できる方が、できない方のお手伝いをする場面など)を大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が他施設に転居後も情報を提供したり、面会をして励ますようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にはホームに対する要望や生活への意向を聞き、サービス計画書に反映させている。また、生活の中で利用者の真の思いを感じ取り日々の支援にあたっている。	90を過ぎた利用者が「母がゆっくり食べなさい」と言ったとして今でも咀嚼をしっかりしていたりと、「その人その人の想い」があることは職員で周知し、さらに生活歴が幼少期、青年期と年代ステージに分かれて記載する「情報収集表」で情報共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活の希望を把握し、またできること、できないことを把握することに努めケアに連動させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報で把握に努めるが、入居直後からも本人の様子を観察把握するよう勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一番重要な本人との話し合いという点ではなかなか把握しきれないことが実情としてあるが日々表情や言葉の中から察し把握するよう努め介護計画に反映している。	ユニット会議でのカンファレンスは居室担当が中心となり、その内容をベースに毎月の計画作成日に計画作成担当者がモニタリングシートと介護計画書のたたき台を作成しています。その後介護支援専門員のチェックを経て、職員に回覧もおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子については、介護記録、介護経過、申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスにとらわれず会社資源を含めた多種多様なサービスを今後の課題として取り組みたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの近くにあるコンビニエンスストアに行き買い物をしたり、地域の商店街や公民館の行事などに参加し社会の一員としての暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとなっている内科医、外科医、歯科医への受診を支援している。受診結果は詳細に記録している。	家族の意向は特段なかったため、現在全員が協力医となりました。月1回の受診は、薬の消費最終日を確認して1名～数名を職員が受診介助します。帰路にはコンビニエンスストアなどにも立ち寄ってドライブ外出に変貌するため、利用者には嬉しい機会となります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や症状の悪化等見られた場合は主治医に相談し、また家族への相談を行い早期の受診や検査を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同行し、日頃の様子を病院側に報告し入院中には治療経過を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の進行に応じて主治医と家族とホームとの間で話し合いを持ち、今後の生活の方針や事業所のできるケアを伝えながら決めていき支援体制を整えていく。	何かあっても「地域の駆け込み寺になろう」の理念が頼もしく気持ちに響き、「看取りを取組むとして」現在ターミナルを迎えている利用者もいます。「口径摂取できない、医療が常時必要となれば難しい」ことを家族と共有している一方で、「最期は病院で」との家族希望の移転もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で開催される救急処置法の講習に参加したり、応急処置法に関しては看護師に教えを仰いだりして、実践に役立てるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練実施日には地域住民の協力を得、避難誘導訓練を行っている。	9月の津波避難訓練では第一次避難場所ということから地域住民も交わり、利用者を職員と協力して4階に誘導下り、4名で車いすごと抱えたりと比較的スムーズにできた反面、階段の踊り場にポータブルトイレがあることに指摘を受けて、勉強となる訓練となっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や性格を把握し一人ひとりその人らしさを大切に、その人にあった言葉使い、対応を心掛けている。	接遇については職員会議で「自らの接遇について発表する」時間が用意され、「お客様に笑顔で挨拶します」「こちらから先に声をかけます」「お見送りをしっかりします」と発言することで責任感も養われ、実践につなげています。実際訪問でも全員が笑顔で気配りのある言動でした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望、また不安の訴えにはしっかりと向き合い、傾聴しそのうえで自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務は一日のうちに行えば良いと言う考えをし、生活の主体は利用者であることを頭に入れて職員の都合でなく本人の希望や訴えを優先するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師の来設があったり、外出時や入浴時の服選びを手伝うなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りに参加できるよう誘導したり、食事の支度にさそったりして食事に関心を持ってもらえるよう支援している。	立てた献立に基づき週毎に食材を発注することから、立案前に誕生月の利用者には「何食べたい」とリサーチしています。タイミングよくお茶をだして下さったり、「ご飯足す？」と尋ねたりと、職員の見配りも十分ですが、味つけや洗い物を職員さんながらにおこなう利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分及び食事摂取量をチェックし、適量が確保できているかを確認している。また、刻みやミキサー、とろみ等本人にあった食事形態を見極め対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄誘導は個々の排泄感覚を尊重し随時行っている。できる限り、トイレでの排泄ができるように取り組んでいる。	フロアに2箇所あるトイレの扉はアコーディオンカーテンです。15分間隔でトイレに入る人は、待つ人に「悪いっけねえ」と声をかけ、待つ人も「いつでもええよ」と応え、姉妹のようにトイレを使用する場面からは、いたわり合いながら自立を支え合っていることが伝わります。	アコーディオンカーテンの磁石が高齢者には強すぎるようで、引けなくて困る場面が多々あったため、改善を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による体調変化等は主治医から説明を受けているため、見極めをしっかりと心がけている。水分摂取量には気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日を除く午後に行われ一日おきの入浴だが、本人の希望により友人と楽しく入りたい方など希望に応じている。	湯の入れ替えはなく、十分洗身した後身体を沈めてもらうようにしていますが、どちらかというと利用者が積極的に「早くはいらにやあ冷めるで」と誘いあったり、「電気がもったいない」と職員が指導を受ける場面もあり、総体として「家族のお風呂の時間」となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の日課等を把握し、ベッド使用、布団使用の選択は自由で、また、慣れた家具を持ち込んで頂き安眠を促すようにしている。日中はソファで横になる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医への受診の際には薬についての説明を受け、薬剤師には服薬時の注意事項等の説明を受けている。薬についての気付きや疑問にはその都度連絡をし指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意とする事や好きなことを把握し日々の生活の中で力を発揮してもらっている。散歩や買い物に出かけたりなど気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出かけたり、行事を通して季節を感じられるよう支援をしている。	「洗濯干しが終わったら散歩」「水曜日は買い出しの日」と概ね定まっていて、買い物では職員に同行してのドライブ外出があります。レク係の運営の下、初詣や花見、公民館祭り、夏祭り、外食企画のほか、小國神社や可睡齋などはリクエストで少人数や個別外出にも応えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の管理は職員が行っているが、本人同行の買い物などでは、できる方には自分で支払う事を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話はフリーに使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには花を飾ったり、日中の蛍光灯の点灯を工夫して刺激を軽減したり、壁など季節感のある飾りつけをしている。	1号館にはモールでつくったクリスマスリースが、2号館には塗り絵が、3号館には生葉をペイントで押絵した創作壁画が目を楽しめるほか皆でトランプに興じていて、どのフロアも利用者と職員がワイガヤしながら制作したであろうことが、その温もりから伝わります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを見たり、設置してあるソファに座りゆったりと歓談できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む物には制限はなく本人が使い慣れた物や、必要とする物を自由に持ち込むことができている。	ベット、カーテン、エアコン、洗面台、カーテン付押入れ(兼クローゼット)が備わっているため、チェストやテレビ、冷蔵庫も皆小ぶりのものが持ち込まれています。血圧の記録を日課とする人はノートやペンが、座ると落ち着く人には畳と、その人らしいものがあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内の色々な場所には案内をあげている。(トイレ・浴室・自室の入り口など)		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団長啓会		
事業所名	グループホーム 松葉の家(2ユニット)		
所在地	静岡県袋井市大野2730-4		
自己評価作成日	平成28年12月2日	評価結果市町村受理日	平成29年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivovoCd=2276600315-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の代理家族として、ご家族が関わるであろうすべてのことを出来る限りご家族に代わって支援していきたいと取り組んでいます。そのためには、ご家族の協力を得、相談、報告を密にするように心掛けています。また、理念にある「自己決定の支援」を常に念頭に置き押し付けや拘束のない、自宅にいるような気持ちで生活が出来るように支援しています。日々の介護の中で医療・認知症・接遇について沢山の事を学び、それを知識として取り入れ、利用者様と嬉しいこと、悲しいこと、楽しいことを共有し介護を楽しんでいます。誠心誠意のサービスを提供し、地域の皆さんの福祉の担い手として頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調査訪問日はこの冬一番の寒波。戸外の冷たさとは裏腹に、車いすの利用者の膝の上に洗濯籠を乗せ談笑しながら洗濯干場に向かう姿をはじめ、目が合えば「寒いねえ」「はい、はい」と発語がスムーズな様子から「自己決定の支援」の蔓延が覗えます。クリスマス会にもその姿勢は垣間見え、フェルトのツリーガーランドは縫い物の得意な人のための職員による発案で、開・閉会の挨拶も利用者が担当しています。また事務室には「コンプライアンス・セルフチェックシート」が貼られ、勤務管理表には「計画・実績」及びその日の人数が入り、法令遵守を法人一丸で推進していると確認でき、管理者の誠実な人柄と併せ安心感のある事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の駆け込み寺になろう」という運営理念を掲げ、認知症を患った後も住み慣れた地域で、その人らしく生活が出来るように支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	「海岸の清掃」や「ドブさらい」等の自治会活動にも積極的に参加しているほか、「夏祭り」や「秋祭り」を通して地域住民との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民によるボランティアの受け入れや小・中学生の「福祉体験」の場として、認知症の人達と関わる機会を提供し、認知症の人への理解や支援の方法を学んでもらう機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、会議の後は議事録によって全職員に会議の内容を周知させ、サービスの向上などに役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者にも運営推進会議への出席をお願いし、日頃の取り組みや実情を伝えていく。また、市役所が行う研修などに参加したり、日頃から電話等でも連絡を取り合っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」については、法人全体で取り組み、職員研修や毎月行われる職員会議等の場で、全職員が具体例を含め、勉強し、取り組んでいる。建物の玄関やユニットの出入り口も自由に出入りできるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束同様、虐待の防止についても法人が行う研修では必ず取り上げられる項目であり、職員は常に意識し、虐待の防止を徹底している。また、虐待が起きた場合は法人の関係部署へ通報するシステムができていく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	任意で加入している「介護保険研究会」や施設内で行っている「勉強会」などで制度を学ぶ機会があり、実際に成年後見制度を活用している利用者もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった段階で、施設内や生活の様子を見ていただき、本人や家族が知りたい事柄について説明し、契約の締結に当たっては、十分に説明をし、納得して頂いた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族様からの要望や意見を伺ったり、ユニットの入り口に「意見箱」を置いて匿名でも自由に意見・要望を表せるようになっている。また、面会時にも要望などについて尋ねるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う「ユニット会議」や「職員会議」で職員の意見や提案などを訊く機会ができています。管理者に対しても職員が自由に意見を言える関係ができています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「個人評価」「施設評価」システムがあり、職員個人や施設の努力や実績が評価され、賞与や手当に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行う研修の開催や外部研修への参加を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市が主催する研修への参加の他、行政や地域包括支援センター、介護支援事業所や施設職員が集まる「介護保険研究会」等への参加を通じて同業者と交流する機会や勉強する機会がある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にも入居への不安や困っていること等を伺う機会を設けているが、入居した後の段階では特に不安な気持ちを取り除けるように、本人の言葉に耳を傾け、寄り添って、安心できる人間関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、御家族様に対しても入居相談の段階や面会の度に不安な事や困っていること等を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時には、本人の状態を良く伺って、その方にとって最良のサービスが受けられるように、他の施設やサービスを勧めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側が決めたサービスを一方的に押し付けるのではなく、自己決定の支援を心掛けている。家事なども一緒に行い、対等な人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時にも「家族と施設職員が一緒になって本人を支援していきましょう」と話をさせて頂いている。施設で行うイベント・行事にも参加して頂く機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、友人、知人の訪問も歓迎しているが、相手の方も高齢な場合が多く、継続は難しい。馴染みの美容院へ通い続けている方などはいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が、一人で孤立したり、居室内に引き籠もらないように、他の利用者様との交流を仲介したりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移った後も面会に行ったり、退去後に家族に手紙を送ることはある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接本人に話を聴くだけでなく、利用者様の眩みや独り言から、その人の本当の思いをくみ取り、思いの把握に努めている。困難な場合は、家族に代弁してもらうこともある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接で、生活環境や生活歴の把握に努めるとともに、在宅サービスを受けていた時の居宅介護支援事業所のケアマネから情報を頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居相談の段階で、御家族や本人から「1日の過ごし方」や「心身の状態」「有する能力」について話を伺い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、モニタリングの結果を介護計画へ反映させている。プランの実践を日々振り返ることができるよう、介護記録は評価機能も含んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の様子や変化は、気付いた点などは、介護記録や介護経過、申し送りノートなどに記し、ユニットの職員全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化については、施設内の既存のサービスだけでなく、公共のサービスやボランティアを利用する形で、今後取り組んでいきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにあるコンビニやスーパー、授産所が運営する喫茶店や公民館、神社などへ出かけ、地域に暮らす社会の一員としての暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターとなっている内科医と歯科医の受診には職員が同行し、主治医に状態を伝え、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回のペースで来設する職場内の看護師に、気になる点などを相談し、適切な受診を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族とともに職員も同行し、日頃の様子を病院側に伝え、入院中には治療の経過を確認しに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から主治医や家族と相談し、施設でできることの説明をし、施設での最期を望まれば、看取りに取り組むようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行う救急処置訓練に参加したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の一次避難場所となっていて、避難訓練の日には、地域住民の協力を得て、避難誘導訓練を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である理療者様に敬意を持って接し、敬語や丁寧語で声掛けを行っているが、利用者様が慣れ親しんだ地元の方言などを使って話す場合もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自己決定の支援」は施設の運営理念の一つにも掲げられている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体は利用者様であるという事を常に頭におき、職員の都合で行動しないように注意掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアの美容師が毎月来設したり、お化粧品などの手伝いをすることもある。お風呂に入った跡や、外出時の着替えも、洋服を選んで頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成や食材の買い物、味付けや食器拭き等にも関わって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下の状態によって、お粥、刻み食、ミキサー食、汁物・飲み物へのトロミ等食事形態を調整したり、盛り付けなども昔の習慣を取り入れたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがい、入れ歯の洗浄などを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声掛けや誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表によって、一人ひとりの排尿・排便を把握し、便秘が続く場合は主治医に相談する。水分摂取量や排泄時の姿勢、お腹をさすり、腸の蠕動運動を促したり、洗浄便座で刺激するなどにも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	水曜日と日曜日を除き、二班に分かれて1日おきに入浴しているが、本人の希望があれば、毎日でも対応する湯にしている。職員数等の関係から時間帯は決まっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調が悪く、日中もベッドで横になる時間が多い利用者様もいる。ベッド使用か布団かの選択は本人の希望に沿ったものである。入床の時間も自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬剤情報」を読んだり、居宅療養管理指導の下、薬剤師に説明を受けたりしながら、一人ひとりの方が使用している薬を把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いをして頂いたり、デイサービスでカラオケをしたり、釣りや買い物に出掛けたり、裁縫をしたり、新聞を読んだり、散歩や外気浴に出たりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出掛けたり、桜やヒマワリ、コスモスが咲く時期や紅葉の時期には観賞に出掛け、季節を感じられるように支援している。外食に出掛けることもある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持し、職員と一緒に買い物に出掛け、好きな物を買って、支払いができる方もいるので、そうした方にはそのように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいと希望される方には、事務所の電話を使用して頂いている。手紙を書く方も以前は居たが、現在はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に季節や年中行事を表す飾りつけなどを行っている。飾りつけも利用者様と職員が一緒になって作成している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファは、2か所に置かれていて、気の合う者同士が座って話ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた馴染みのものを持ってきて頂けるように説明をさせて頂いている。居室への持ち込む物には制限は無く、本人や家族が考え、テレビやテーブルを置いたり、位牌や遺影を置いている方もいた。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には表示があり、建物内は手摺がめぐらされ、床はバリアフリーで、車椅子や杖歩行の方にも安全な作りとなっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276600315		
法人名	医療法人社団長啓会		
事業所名	グループホーム松葉の家(3ユニット)		
所在地	静岡県袋井市大野2730-4		
自己評価作成日	平成28年12月2日	評価結果市町村受理日	平成29年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivovoCd=2276600315-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の代理家族として、ご家族が関わるであろうすべてのことを出来る限りご家族に代わって支援していきたいと取り組んでいます。そのためには、ご家族の協力を得、相談、報告を密にするように心掛けています。また、理念にある「自己決定の支援」を常に念頭に置き押し付けや拘束のない、自宅にいるような気持ちで生活が出来るように支援しています。日々の介護の中で医療・認知症・接遇について沢山の事を学び、それを知識として取り入れ、利用者様と嬉しいこと、悲しいこと、楽しいことを共有し介護を楽しんでいます。誠心誠意のサービスを提供し、地域の皆さんの福祉の担い手として頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

調査訪問日はこの冬一番の寒波。戸外の冷たさとは裏腹に、車いすの利用者の膝の上に洗濯籠を乗せ談笑しながら洗濯干場に向かう姿をはじめ、目が合えば「寒いねえ」「はい、はい」と発語がスムーズな様子から「自己決定の支援」の蔓延が覗えます。クリスマス会にもその姿勢は垣間見え、フェルトのツリーガーランドは縫い物の得意な人のための職員による発案で、開・閉会の挨拶も利用者が担当しています。また事務室には「コンプライアンス・セルフチェックシート」が貼られ、勤務管理表には「計画・実績」及びその日の人数が入り、法令遵守を法人一丸で推進していると確認でき、管理者の誠実な人柄と併せ安心感のある事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の駆け込み寺になるように、介護に疲れた方や困っている方等の逃げ場になるよう、実践しつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町のお祭り、公民館でのまようし等、行事に参加。夏祭りには町内の方々が来て頂けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスと歩調合せボランティアの受け入れ、小・中学校の職業体験の場として活用。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	良い事も悪い事も報告し、意見交換などし、サービス向上に活かしている。(地震災害など)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方にも(担当者)出席をお願いして毎回ホームの実情や取り組み報告、防災課等他の部署への連絡の橋渡しも担ってもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今までは玄関の施錠は解除していたが、さまざまな事件が起り、利用者様の安全を守る為、下の玄関(自動ドア)を手動とした。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会には必ず項目として挙げられ、職員は常に意識し行動している。学ぶ機会は必ず持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は利用者個人に必要性が生じた場合は、制度活用に向けて関係機関へ連絡、相談している。また、任意で加入している研究会等で学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階でホームの特色を含め契約内容の説明を十分に行い、また、契約内容の変更の際には事前の説明等を行って、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	献立作成時には、利用者様の食べたいものを聞いて希望の献立を取り入れている。誕生日の利用者様の希望も聞いている。家族の方には要望を伺ったり、直接言い難い事は意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議、定期的に行われ職員の意見や提案を聞く機会となっている。アンケートなども行い、職員の思いを把握するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人評価、施設評価、達成手当等システムがあり、個人及び施設の努力や実績が評価され賞与に反映される。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修機会(勝因会議の中で)設けたり、各種の研修会への参加を奨励している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の職員会議への参加し、他の方々との交流を深めている。グループ全体で開催される忘年会では事業所を越えた交流が図られている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何回か本人と会う機会を設け、本人の思いを聞き、察し、顔なじみになれるように努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階で入居を決心するに至るまでの思いに傾聴し、よりよいサービスが提供できるように御家族様の気持ちの拠り所となれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の主訴から、今必要な支援は何かを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をする方々であるから、家事など一緒に取り組んだり、レクリエーションをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来て頂ける環境にあり、入居の際には家族とホームの双方で本人を支援することを提案し、随時相談や報告を行っていくよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス利用時の友人にはいつでも会えるよう支援、顔なじみの方のいる館には職員同行し、会えるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トランプ、貼り絵、塗り絵など皆で行っている。利用者様同士の仲介もし孤立の無い支援に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が他施設に転居後も情報を提供する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定の支援を理念に掲げて、居室でゆっくりされたい方は、居室で裁縫をしたり、横になったりしている。起床時間、入床時間、入浴の意思等自己決定を促すよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族、居宅介護支援のケアマネから情報を提供してもらったり、居宅へ伺うことでも生活環境を把握するよう努めている。ご本人様との話し等の中からも探る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報で把握に努めるが、本人の様子を観察したり、話を傾聴し、その人となりを察する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向、本人の意向のハッキリとした方ばかりではないので、密に職員同士話し合ったり、その報告を家族の方に伝え、本人にとってより良い暮らしのケアの作成をしている。何気ない会話の中から、引き出すよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを開いたり、問題点等何かあった時に話し合っって情報の共有化を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内のサービスにとらわれず、外食等利用者様と行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と近くのスーパーなどに出掛け、好きなお菓子を買う楽しみが持てるよう支援したり、私たちも一緒に行っていたく事により支えられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクター契約を結ぶ内科、外科、歯科には職員が受診支援、本人、家族の不安、要望を主治医に伝え適切な治療が行われている受診結果はお便り、電話、面会などで報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な観点の気付きや心配事など書きとめ、看護師に伝え、支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を伝え、入院先に足を運び担当看護師から情報を得ることで退院に向けての準備をしている。また相談員には入院の際にホーム利用者様であることを伝え、あいさつをする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を伺って主治医に伝え、ホームと現状の把握、今後、事業所で消えるケアを伝えながら決め支援体制を整えていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に緊急時の対応を呼んでもらったり、消防署で開催される救急処置法の講義に参加。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練には地域住民の協力を得、避難訓練を行っている。職員全員が対応になれるよう取り組む。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの「その人らしさ」を大切にし、その人に合った言葉使い、対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重し、自己決定が出来るように支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先するのではなく、一人ひとりへの支援のための業務があることを認識し、本人のペースを大切に努め、無理強いのないよう支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を溶かす時、本人の思いを聞く、洋服(お風呂)選びは本人と一緒にする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の希望を聞いて、取り入れている片付け、盛り付け、職員と一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック適量の確保できているか確認。刻み、トロミ、治療食等、本人に合ったものを提供し対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後、口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入することで本人の排泄パターンを把握、トイレ誘導などに活かしている。排泄チェックにも役立っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が滞る悪影響を常に認識し、定期排便がある等気を配る。日頃から水分量の少ない方への水分摂取量の確保に対して工夫。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月曜日から土曜日行事などで土曜日が入れない時には日曜日に入れることもある。日中14:00~15:30頃、夕方のお風呂は職員の人数が安全面で一人の為ない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今まで使っていた物を持ってきて頂いたり布団で寝ていた方は布団ベッド使用されなくても今までの生活習慣を配慮。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医への受診の際には薬についての説明を受け薬剤師の方には服薬時の注意事項などの説明を受けている。他はその都度連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の得意な方は食材の皮むき、盛り付け等したりしている。外への散歩し、気分転換を図る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物への支援、同行。家族の方と外出。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のところで、管理する事の出来る方は、所持し使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望の時に随時対応、手紙も送りたい時は一緒に切手を買って出したりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は誰もが汚れているのは嫌がるので、特にトイレは清潔にしている。便、床が濡れたりしているときは、その都度拭いている。花々を花瓶にさしてテーブルに置いている。壁に季節の飾り、絵を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士、隣の席にしたり、ソファへ誘導したりしている。テレビの好きな方は、そばで見られる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間まで使われている物を持って来て頂く事によって、安心して落ち着いて生活が出来る。茶碗、食器類、タンス。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物たたみ、干し等。壁飾りは職員と共同で作っている。塗り絵も得意な方、塗って過ごされている。		